

みちしるべ

みずからのために道しるべを置きみずからのために標柱をたてよ（エレミヤ31:21）

人になれ 奉仕せよ

聖句：今日、ダビデの町であなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシヤである。
(ルカによる福音書 2:11)

保育目標：	0歳児	・保育者と共にクリスマスを嬉しく待つ。
	1歳児	・クリスマスを楽しみに待ち、友だちや保育者と一緒に喜ぶ。
	2歳児	・クリスマスの雰囲気を楽しむ。自分の思いを友だちや保育者と共有する経験をする。
	3歳児	・クリスマスの意味を知り、嬉しい気持ちで待つ。寒さの中でも戸外で遊ぶ。
	4歳児	・イエスさまの誕生を喜び祝い、周りの人たちと分かち合う経験をする。
	5歳児	・クリスマスを感謝と喜びをもって受けとめる。困っている人や悲しんでいる人に心を向け自分たちのできることを考えていく。

夏から一気に冬が来たのでは？と思うほど肌寒い日もありますが、園庭一面に広がる落ち葉に出会うと、秋の深まりを感じています。朝一番に園庭に出るつばめ組の子どもたちは、落ち葉遊びをしながら毎朝沢山の落ち葉を集めて、はと組ひよこ組さんの為に乳児園庭まで持つて来てくれることを楽しんでいます。

はと組の子どもたちは朝から「大きいお庭にいく～」と自分で準備を始めたり、乳児園庭の葉っぱやツルを見つけると、電車ごっこや釣り遊びしたりなど、それぞれに見つけた場所や物で遊び始めています。

ある日、朝のおやつの時間が終わり、他の子が遊び始めた頃に登園したAちゃん。外へ出た途端、何だか悲しくなり、「抱っこして～」と涙が止まらなくなっていました。私は「そうか～。わかったよ」と抱っこしながら、他の子が葉っぱを集めて遊びを始めていたテーブル近くに座り、きっかけを探りながらみんなで“おしゃべり”していました。「ハッピバースデ～♪」と、葉っぱや枝をケーキに見立て楽しそうに遊んでいるのを見て、「ポップコーン食べたんだ。」と話し出すAちゃん。「いいな～。ポップコーン作ろうか？」と話すと微笑むので、『それじゃあ』と靴を履いて遊ぼうとすると、頑なに嫌がり泣いてしまいます。その後も時折遊びを見て涙が止まるのですが、抱っこから降りるのは頑なに嫌がるAちゃん。

しばらくそのようなやりとりが繰り返される中、そばでひよこ組さんがロフトの小さな坂道をよちよちと上り下りし始めたので、私はAちゃんを抱っこしながらしばらく見守っていました。こちらに笑いかけてくるひよこ組さんに誘われるよう私が登り始めると、すぐに「Aもやる～。」と笑顔になったAちゃん。なんと抱っこからおりて遊び始めました。坂道を下りながら、「映画館行くよ～」「先生もポップコーン食べる？」と話はじめ、「何してるの～？」とやってきた友だちに、「良いよ～。」「映画館一緒に行く？」など、その場の遊びをリードしながら、友だちとやりとりを楽しみ始めました。

この日、私は何だか寂しくて浮かないAちゃんの気持ちを受け止め、『どうしたら気持ちが切り替わるだろう…』と思いまぐらしことばをかけていましたが、もしかしたらAちゃんには、私がAちゃんの気持ちに思いを寄せて待つことよりも、遊びだすきっかけづくりに思いが向いていることが伝わっていたのかなと思いました。

自我が芽生えてくるこの時期。子どもたちは「やりたくない」「やりたい」などの色々な思いを表現して私たちに訴えています。子ども自身が動きだすタイミングを待つことと、こちらがきっかけを作ること。両方のバランスに試行錯誤する日々です。子どもたちが、怒ったり泣いたり色々な思いをありのまま表す姿に出会う時、その姿に対応しようとするだけでなく、実はその表しそのまま丸ごとを受け止めることが大切なのでしょう。そのことにより気持ちが満たされ、次に踏み出すタイミングになるのだと実感することが沢山あります。小さな、大切なその一歩を支えられる存在でありたいと切に願います。

11月25日（火）から、こども園はアドベントに入りました。どんな時も私たちを愛してくださっている神さまに感謝しながら、神さまからの最大の愛の贈り物であるイエス様のお誕生の喜びが世界の隅々に届きますようにと祈ります。

乳児クラス主任 星野 陽子